

# 医療政策クラークシップ・プログラム 第1回

2004年3月1日～12日

近藤研究室

# 医療政策クラークシップについて

東京大学先端科学技術研究センター  
客員助教授 近藤正晃ジェームス

日本の新たな医療政策を組み立てる人材が求められています。

国民の医療政策に対する関心は高く、あらゆる生活領域の中で医療分野に対する関心が最も高いという調査結果が出ています。その一方で、国民の実に9割以上が現行の医療制度に不安を抱えているとも報告されています。この国民の期待と不安に応え、医療政策の改善と改革に取り組める人材が求められているのです。

医療政策人材の育成が難しいのは、医学と政策の双方に通じることが求められているからです。法学や経済学を学んだ人が医学部に入り直すことは日本では稀です。一方で、医学を学んだ人で、政策の世界に入る人も現時点では限られています。

今回の医療政策クラークシップは、こうした医療政策人材を育成するための一つの試みです。このような機会を通じて、医学生が政策に対する理解と興味を高め、また政策当事者が医学生へ門戸を開くきっかけになれば幸いです。

☆ ☆ ☆

このクラークシップは、中央省庁、地方自治体、大学、病院の皆様のご理解と多大なるご尽力ではじめて実現することができました。皆様に厚く御礼申し上げます。

今回のクラークシップ参加者の中から、将来の日本の医療政策を担う人材が誕生することを願ってやみません。

# 概要

## 研究内容

テーマ: 「千葉県東金病院女性専用外来の患者満足度調査と改善策の提言」

内容: A) 患者へのアンケートの解析 (n=123 / 500)  
B) 患者への詳細アンケートの解析 (n=32)  
患者への個別40分インタビューの実施と解析 (n=32)

## スケジュール

3月1日(月)

問題解決の手法トレーニング  
医療政策論の広義

3月2日(火)

厚生労働省でのヒアリング  
財務省でのヒアリング  
インタビュー・スキル・トレーニング

3月3日(水)

経済産業省でのヒアリング  
千葉県立東金病院、天野先生のお話

3月4日(木)～3月8日(月)

患者インタビュー(医療従事者・経営者インタビューは延期)  
プレゼンテーション・スキル・トレーニング

3月9日(火)～3月11日(木)

患者インタビュー結果の解析とプレゼンテーション準備

3月12日(金)

最終プレゼンテーション

## ご協力を頂いた皆様

(五十音順)

天野恵子 千葉県立東金病院副院長  
安藤崇雄 経済産業省経済産業政策局産業構造課経済産業事務官  
宇波弘貴 財務省主計局厚生労働第三係(医療)主査主計官補佐  
小林廉毅 東京大学大学院医学系研究科教授  
迫井正深 厚生労働省大臣官房厚生科学課課長補佐  
高本眞一 東京大学大学院医学研究科教授  
玉井克哉 東京大学先端科学技術研究センター教授  
堂本暁子 千葉県知事  
平井愛山 千葉県立東金病院院長  
広井良典 東京大学先端科学技術研究センター客員教授  
山崎繭加 東京大学先端科学技術研究センター特任助手

東金病院女性外来フォローアップ調査に御協力頂いた患者の皆様

# 参加者の声

岡田随象(東京大学医学部5年)

現在我が国が抱える急務の課題として医療制度の改革が挙げられることは周知の事実であろう。年間30兆円にもものぼる医療費が赤字を抱える国家財政に与える負担の大きさは容易に想像できる。高齢化社会に伴って医療費が右肩上がりに増大することを考えると先行きはなお暗い。財政面に限ったことのみではない。国際的にも稀な勤務医の過酷な労働状況・国民に根付く医への強い不信感・日本医師会を中心とした旧体質の保全、多くの社会的問題も同時に集約されているといつてよいだろう。

しかしながら医師による他業界、殊に医療政策分野への参入は大いに遅れてきた。様々な理由があげられるとは思いますが、ともすれば専門分野に特化しがちな医師集団に対して臨床医もしくは研究者以外の選択肢が提示されてこなかったこと(同時に彼らも模索してこなかったこと)は一つの要因であろう。医学生にとっても同様である。医学部のカリキュラムにおいて社会医学の占める割合は極端に少ない。多くの学生が現行の医療制度に対し幾ばくかの疑問を感じつつも他の選択肢が見出せず臨床医の世界に身を投じてゆく。今クラークシップは東京大学医学部にとって初の試みであったが、学生にとって医学の世界をその外から眺めることの出来る非常に良い機会として機能していると感じた。私が今実習を希望したのはまさにその様な理由からであった。

近藤客員助教教授率いるスタッフによって提供された今実習は高レベルかつ実践的であり、二週間で行われたとは思えない密度で内容を学習することができた。

現在の医療制度が抱える様々問題点を政策・ビジネスサイドという我々医学生にとっては全く「新鮮」な切り口より捉え直し、同時に「どうすれば改善に至ることができるか」という極めて現実的な方向で取り組む姿勢を学ぶことができたのは大きな収穫であろう。

厚生労働省・経済産業省・財務省等官庁組織へも積極的なインタビューが行われ、彼らとのやり取りを通じて実際に政治の現場で医療がどのように動いているのかも感じ取ることができた。厚生労働省での技官ポストは医療従事者が医療政策に関わる古くからある選択肢ではあるが、総じてあまり活用されてこなかったともいえる。今実習のように他省庁も含めその可能性を学生のうちから知ることができればより活発な経路となり得るのではないだろうか。

具体的には「東金病院における女性外来の評価プロジェクト」に携わることにより実際に医療政策を立案・実現していく過程を学んだ。二週間という限られた期間で成果をまとめるのは大変なことではあったが、制作過程をそのものを経験できたのはクラークシップならではの貴重な体験であるといえよう。同時に我々のアウトプットが多少なりともプロジェクト自体にフィードバックされるという事実は学生の実習への意欲を大いにかりたてていた。

同時にこれらの作業に際してインタビュースキル・プレゼンテーションスキル・ロジカルシンキング等、将来必ずや役に立つであろう技術を専門的に教えていただいたことも記さねばならないだろう。

以上のように、今実習は私にとって大変満足のいくものであった。来年以降も持続し、多くの医学生に「欠いてはならない」視点を与えていくことは非常に有意義かつ有用であると考えられる。

最後にこの場をお借りしまして、ご多忙にも関わらず熱心に指導していただいた近藤客員助教教授及びスタッフの方々・実習に開設に尽力してくださった医学部教務委員長高本教授に厚く御礼申し上げます。



岡田随象(おかだ・ゆきのり)  
東京大学医学部5年

開業医を営む父親との幼少時からの会話から、医学に関心を抱き、医学部への進学を決めた。大学での実習を通して、医療制度・医療政策という学問の必要性を強く感じるようになった一方、医学部での現行カリキュラムではこの領域を深めることに限界を感じ、今回のクラークシップに参加。将来的には研究職を希望。



五ノ井 渉(ごのい・わたる)  
東京大学医学部5年

生命現象・人間への関心、また、医学的知識は国や時代を問わず普遍的に役に立つとの意識から、医学部に進学。医師として臨床現場で接することができる患者の数には限りがあり、より良い政策の実践が国民全体の利益に貢献すると考え、医療政策クラークシップに参加。将来は、人類全体の生活水準の向上に貢献できる職業を選択したいと考えている。



藤田卓仙(ふじた・たかのり)  
東京大学医学部4年

両親が医師であったことから医師という職業に魅力を感じ、医学部進学を決めた。大学で学ぶ一方、医療政策という分野に接する機会を求めて今回のクラークシップに参加。将来は、幅広いオプションを検討した上で進むべき方向を決定したいと考えている。



川端亮(かわばた・りょう)  
東京大学医学部4年

自分にとってよりチャレンジのある分野であると考え、医学の道を志した。病院実習の際にその病院の副院長から話を聞く機会があり、厚生労働省の技官の仕事が医療現場に大きなインパクトを与えることを知った。政策レベルの仕事が実際にどのようなもので、どのようなインパクトを持ち、また、医療政策分野においてどのようなキャリアパスがあるのかを知りたいと考え、今回のクラークシップに参加。将来的には、医療の現場・それ以外も含め、自分の能力を活かせる方向に進みたいと考えている。



木畑宏一（きばた・こういち）  
東京大学医学部4年

もともとは研究者志望だったが、人と関わりを持てる仕事がしたく、研究をしながら人と密接に関わることが出来る医師になることを決めた。大学で、医学知識を学ぶ一方、医療経済学などのマクロな視点の必要性を感じ、今回のクラークシップに参加した。将来は、日々の業務に忙殺されることなく社会にむけてオピニオンを発信できる医師、また、ミクロな視点とマクロな視点をバランスよく持った人間を目指す。



原聖吾(はら・せいご)  
東京大学医学部4年

医師というプロフェッションに憧れて医学部へ進学。代議士秘書を務めた経験から政策決定プロセスに関心を抱くようになった。政策という切り口から医療を見ることで医療界全体をマクロな視点で捉えることができるのではないかと考え今回のクラークシップに参加した。将来の進路は医師以外にも、メディアの側から医療の分野へインパクトを与えることも視野に入れている。



坪倉正治(つぼくら・まさはる)  
東京大学医学部4年

人間の体への関心、また、病気とは何か？という興味から、医学部へ進学。経営という観点から医療分野を捉えてみたいと考え、今回のクラークシップに参加。将来は、医者・弁護士・ビジネス、など、幅広いオプションを視野に入れ、検討したいと考えている。